



^{すがた} 『姿より ^{かお} 香りに生きる ^{はな} 花もある』

私たちは見た目で判断することがとても多くなっています。これも決して悪いことばかりではありません。先ずはどう見るか、どう見られるか。これも大事なところですよ。自分自身がそうであるように、見る相手にとっても気持ちのいい、後味のいい姿を心がけることは生きていく上で必要な事のように思います。ただ、見た目に或いは見られることにばかり囚われてしまうことには注意すべきです。全てそうなのですが、この囚われ・執着が問題なのです。本質が見えなくなってしまうからです。それはとても勿体ない事、悲しいことです。

そこで香りなのですが、ここで言う香りとは目には見えないけれども醸し出される人柄のようなものかもしれません。これは一朝一夕には作り出すことはできません。出かける前に香水をふりかけたり、ファブリーズするのでは手遅れです。日常の生き方から醸し出されるわけですから、どう生きるかどこへ目標をおいて生きるのかが問われるのでしょう。

ところでファブリーズで思い当たるのですが、近ごろ特にこういう商品が増えてきました。今年還暦を迎える立場とすれば、なんだかやるせない気持ちになってしまうのです。「加齢臭 気づかぬ当人 彼異臭」とか「外見は きれいに見えても 加齢臭」などなど中高年川柳ならずとも自覚しとるわいっ！ですが、やはりここでも「生きざま」こそが大切なのだと、還暦以降の余生はコレでいこうとあらためて決意する年の初めでありました。

本年もよろしくお願い申し上げます。